

PALTEK

(証券コード:7587)

2017年12月期 第3四半期
決算説明資料

2017.11.6 (月)

アジェンダ

- ① 2017年12月期 第3四半期
業績結果
- ② 2017年12月期 業績予想
- ③ 事業の進捗状況

1

2017年12月期 第3四半期 業績結果



連結業績結果(第3四半期累計期間)

(百万円)	2016年第3四半期		2017年第3四半期		増減	
	金額	比率	金額	比率	増減額	増減率
売上高	24,944	100.0%	24,821	100.0%	△122	△0.5%
売上総利益	2,318	9.3%	3,136	12.6%	818	35.3%
販管費	2,311	9.3%	2,444	9.8%	133	5.8%
営業利益	6	0.0%	691	2.8%	684	10,085%
経常利益	35	0.1%	759	3.1%	723	2,023%
親会社株主に帰属する四半期純利益	△15	△0.1%	504	2.0%	520	—
1株当たり四半期純利益	△1.43円	—	46.08円	—	47.51円	—

主な増減要因

- 売上高の減少は、半導体事業およびデザインサービス事業の減少による
- 売上総利益の増加は、前第3四半期(累計)に大幅に減少した仕入先に対して保有する仕入値引ドル建債権の評価額が、当第3四半期(累計)では若干の減少にとどまったことなどによる
- 販管費の増加は、主に人員の増加による

(百万円)	2016年第3四半期		2017年第3四半期		増減	
	金額	比率	金額	比率	増減額	増減率
半 導 体	23,587	94.6%	23,502	94.7%	△85	△0.4%
デ ザ イ ン サ ー ビ ス	1,252	5.0%	1,174	4.7%	△78	△6.2%
そ の 他	104	0.4%	144	0.6%	40	38.8%
売 上 高 合 計	24,944	100.0%	24,821	100.0%	△122	△0.5%

主な増減要因

- 半導体事業については、スーパーコンピュータ向けにアナログ半導体が増加した一方で、メモリ製品が海外メーカー向け、FPGAが通信機器向けに、汎用ICがオフィス機器向けに減少したことによる
- デザインサービス事業については、産業機器向けが増加した一方で、医療機器、航空・宇宙向けが減少したことによる

■ 売上総利益率の上昇は、以下が要因

- 【2016年第3四半期】ドル円相場が急速に円高進行したことにより、仕入先に対して保有する仕入値引ドル建債権の評価額が減少し、為替変動の影響額は△808百万円
- 【2017年第3四半期】年初ではドル円相場が円安に進行したものの、その後円高に進行したことにより、仕入値引ドル建債権の評価額減少を含む為替変動の影響は△34百万円
- 半導体事業において、売上総利益率の低い案件の売上高が前年同期から減少

(百万円)	2016年第3四半期		2017年第3四半期	
	金額	対売上比率	金額	対売上比率
売 上 総 利 益	2,318	9.3%	3,136	12.6%
(うち為替の影響額)	△808	△3.2%	△34	△0.1%
売 上 総 利 益 (為替の影響を排除)	3,126	12.5%	3,170	12.8%

■ 売上総利益への影響額

- 為替変動の影響額は、為替レートの変動が緩やかだったため縮小

(単位:百万円)	16Q1	16Q2	16Q3	16Q4	17Q1	17Q2	17Q3
為替レートの変動(円)	120→112	112→102	102→101	101→117	117→(110)→111	111→(108-114)→112	112→(114-107)→112
為替変動の影響(売上総利益)	-126	-315	-365	277	102	-52	-83
仕入値引債権の評価額変動の影響	-437	-657	-795	653	128	-156	-62
調達在庫の為替レート変動の影響	310	341	429	-375	-26	104	-21

■ 営業外損益への影響額(期末評価替の影響は含まず)

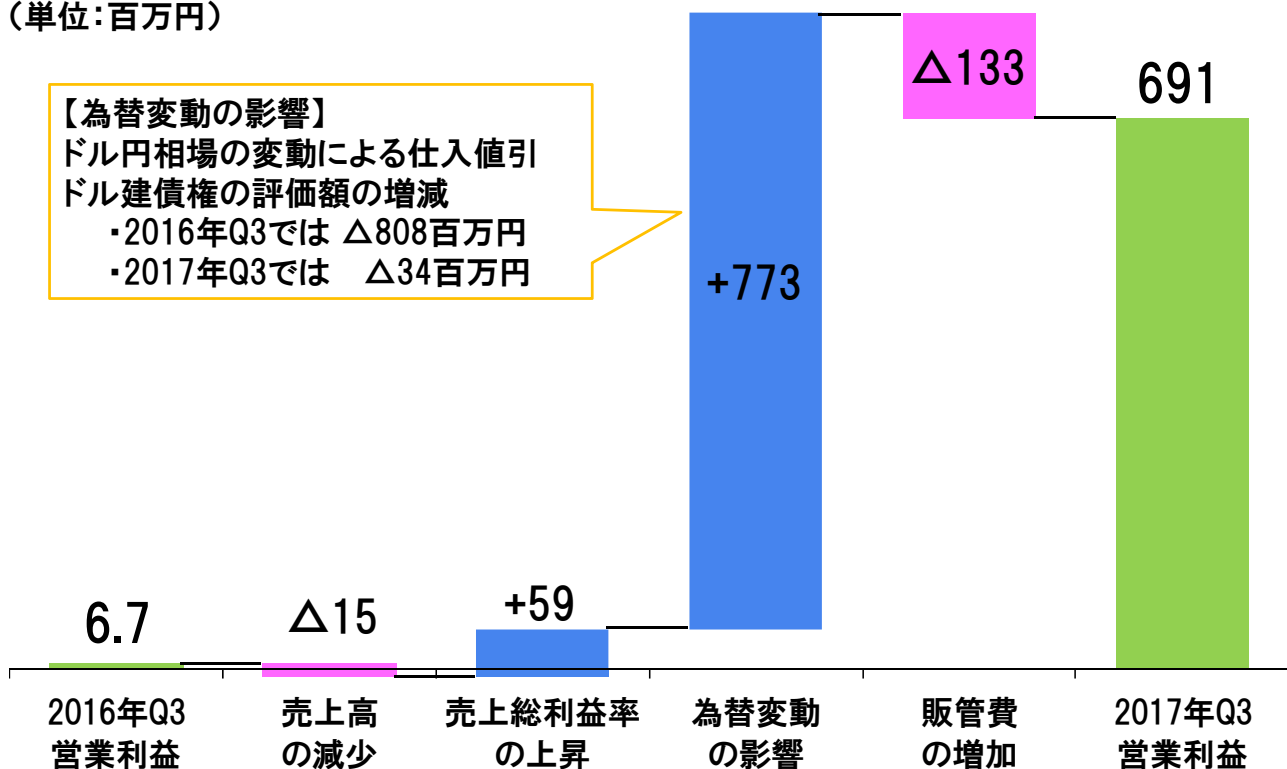
- 買掛金支払時のレート変動の影響は、為替レートの変動が緩やかだったため、縮小

(単位:百万円)	16Q1	16Q2	16Q3	16Q4	17Q1	17Q2	17Q3
買掛金支払時のレート変動の影響(営業外)	407	253	211	-494	36	46	54

- 売掛金受取時のレート変動の影響額は、為替予約のため変動影響が縮小

(単位:百万円)	16Q1	16Q2	16Q3	16Q4	17Q1	17Q2	17Q3
売掛金受取時のレート変動の影響(営業外)	-263	-218	-133	15	25	-29	-34

(単位:百万円)

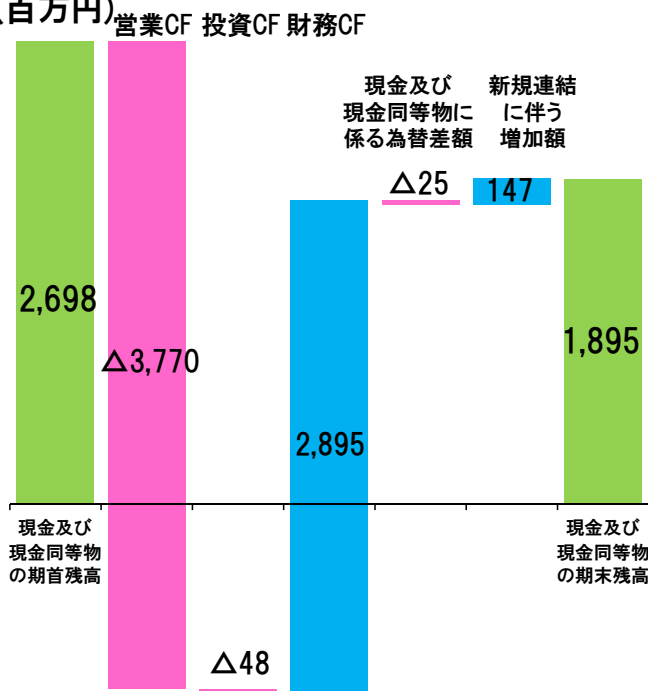


連結貸借対照表の状況

	(百万円)	2016.12末	2017.9末	増減額	主な増減理由
資産内訳	現金及び預金	2,698	1,895	△802	
	売上債権	7,064	7,739	674	
	商品	3,094	3,693	598	
	その他流動資産	2,180	6,166	3,985	未収入金が増加したため
	固定資産	460	455	△4	
資産合計		15,499	19,951	4,451	
負債純資産内訳	仕入債務	1,615	2,261	646	
	短期借入金	3,500	6,560	3,060	買掛金の支払いに充当したため
	その他流動負債	1,220	1,568	348	
	固定負債	269	259	△10	
	純資産	8,895	9,302	407	
負債・純資産合計		15,499	19,951	4,451	

連結キャッシュ・フローの状況

2017年第3四半期のキャッシュフローの動き (百万円)



(百万円)	2016年 第3四半期	2017年 第3四半期
現金及び現金同等物の期首残高	1,199	2,698
営業CF	2,105	△3,770
投資CF	△13	△48
財務CF	△997	2,895
現金及び現金同等物の期末残高	2,305	1,895

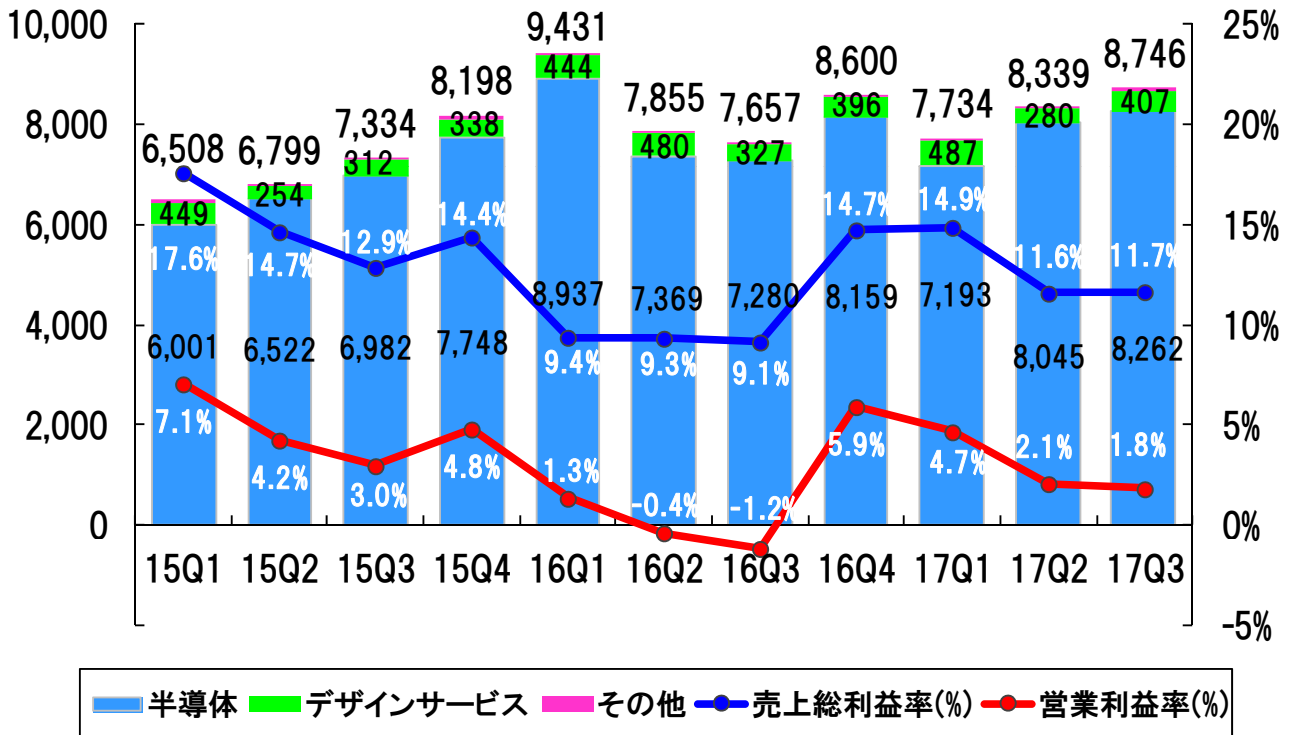
2017年第3四半期のキャッシュフローの動き

- 営業CF: 税金等調整前四半期純利益を計上した一方で、未収入金、たな卸資産、売上債権が増加したこと等により支出
- 投資CF: 有形固定資産および無形固定資産を取得したことにより支出
- 財務CF: 配当金の支払いを実施した一方で、借入れを実施したこと等により収入



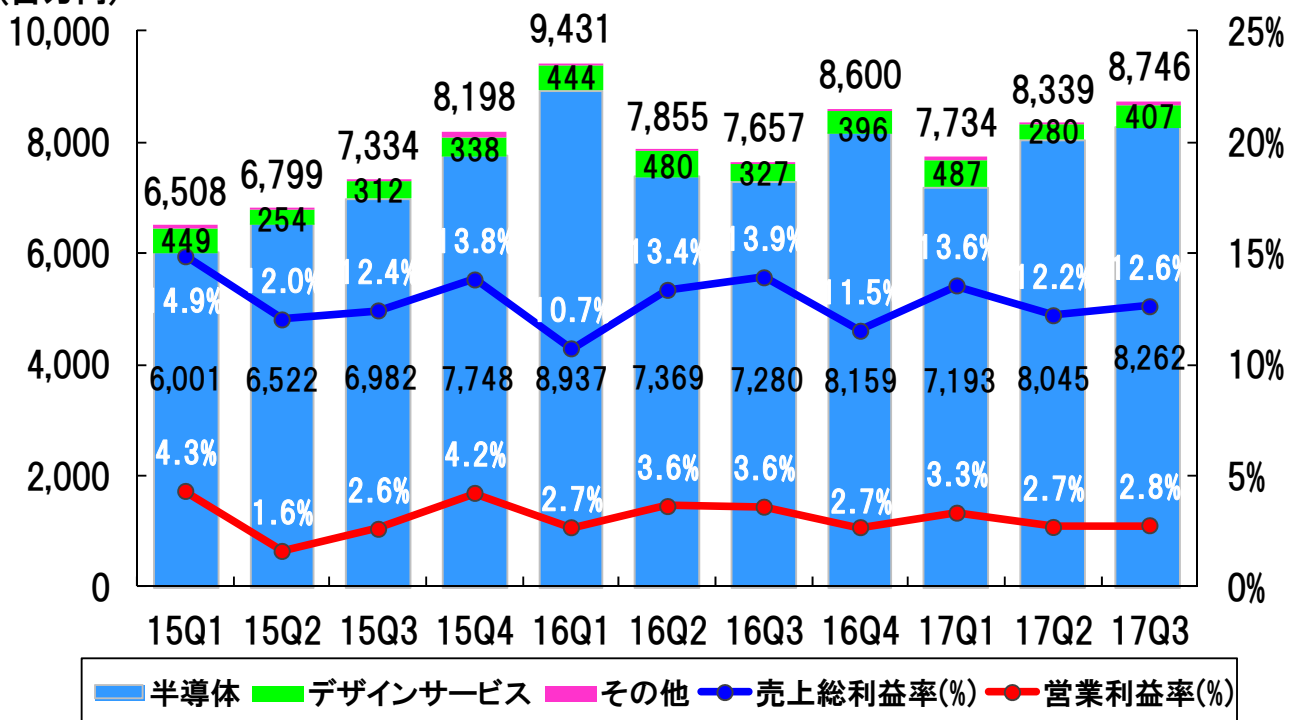
連結業績の四半期推移

(百万円)



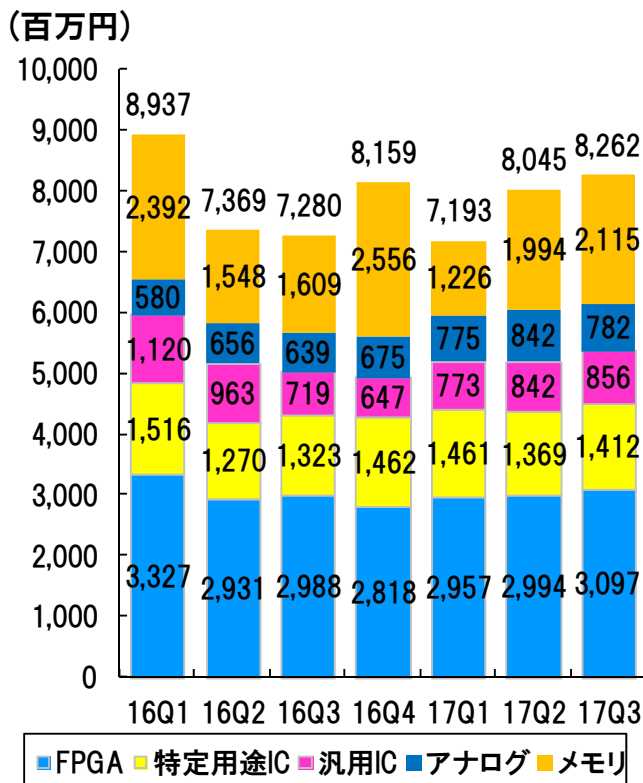
連結業績の四半期推移(為替の影響を除いた場合)

(百万円)



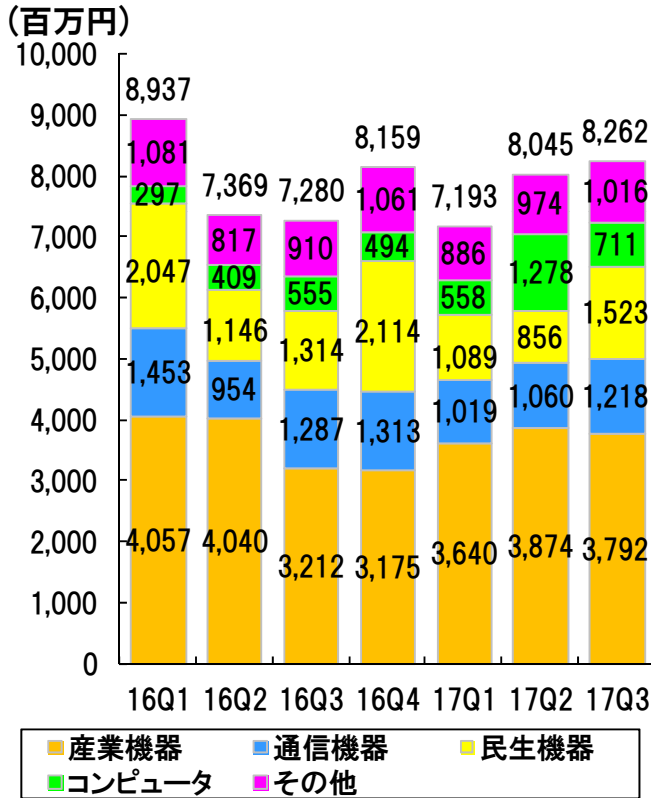
事業別の実績

半導体事業の状況（製品別）



四半期業績の推移

- FPGA**
医療機器、計測機器向けが減少するも、通信インフラ、中小企業向けが増加
- 特定用途IC**
ブロードバンド通信機器向けなどが増加
- 汎用IC**
オフィス機器向けが増加
- アナログ**
医療機器、ファクトリーオートメーション向けが減少
- メモリ**
スーパーコンピュータ向けが減少するも、民生機器向けが増加



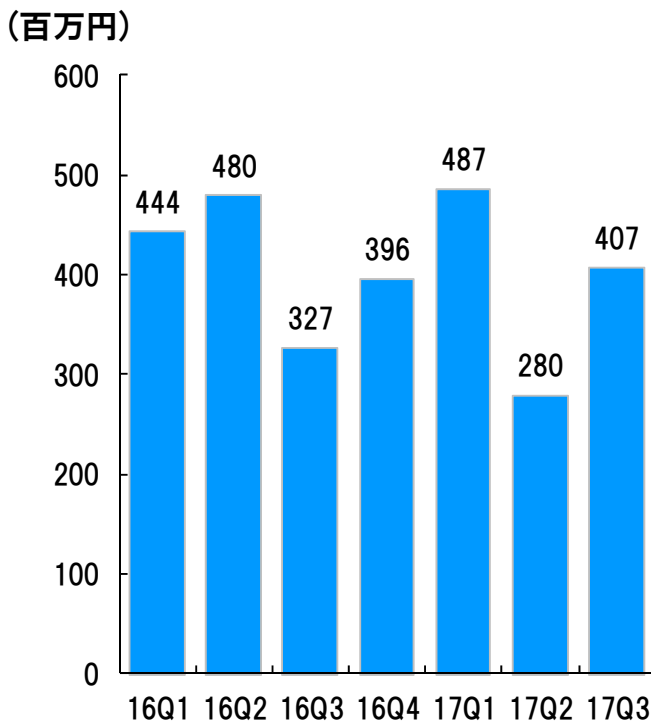
FY2017Q3 Results Reporting

15

四半期業績の推移

- 産業機器
計測機器、医療機器が減少
- 通信機器
通信インフラ向けが増加
- 民生機器
携帯情報端末向けが増加
- コンピュータ
スーパーコンピュータ向けが減少

© 2017 PALTEK Corporation. All rights reserved.



FY2017Q3 Results Reporting

16

四半期業績の推移

- ファクトリーオートメーション、検査装置向けが増加
- デザインサービス事業においては、お客様(3月決算会社)の予算との連動性が高いため、第2四半期の売上高が第1四半期に比べ、減少する傾向

© 2017 PALTEK Corporation. All rights reserved.

2

2017年12月期 業績予想

2017年12月期 業績予想について

業績予想は、8月3日発表の予想数字から変更なし

■ 売上高

- 半導体事業 : 通信機器向けは依然低迷すると見込まれるが、民生機器向けのメモリ製品が復調
- デザインサービス事業 : 航空／宇宙向けが引き続き低調

■ 営業利益

- 【売上総利益】ドル円相場が比較的緩やかに変動したため、仕入値引ドル建債権の評価額の減少等の為替変動の影響が、Q3までに△34百万円発生。直近では若干円安に進行しているため、今後の同評価額のマイナス影響が軽減される見通し
- 【販管費】人員の増加により前期よりも増加

(百万円)	2016年12月期 実績			2017年12月期業績予想 修正予想(8/3)			通期増減	
	上期	下期	通期	上期	下期	通期	増減額	増減率
売上高	17,286	16,258	33,544	16,074	16,425	32,500	△1,044	△3.1%
売上総利益	1,618	1,968	3,586	2,116	2,183	4,300	713	19.9%
売上総率	9.4%	12.1%	10.7%	13.2%	13.3%	13.2%	—	—
販管費	1,521	1,548	3,070	1,583	1,666	3,250	179	5.8%
営業利益	96	419	515	533	516	1,050	534	103.6%
営業利益率	0.6%	2.6%	1.5%	3.3%	3.1%	3.2%	—	—
経常利益	116	△6	110	563	496	1,060	949	858.5%
当期純利益	51	△40	11	370	329	700	688	5,988.9%

為替変動による業績予想への影響

- 2017年8月3日に発表した業績予想においては、適用為替レートは7月末時点の1ドル当たり110.32円
- 年初の円安から緩やかに円高に進行しているため、仕入値引ドル建債権の評価額の減少等が発生し、売上原価を押し上げ、利益が減少

【為替変動による影響見込額】

第3四半期(累計): △34百万円 が発生

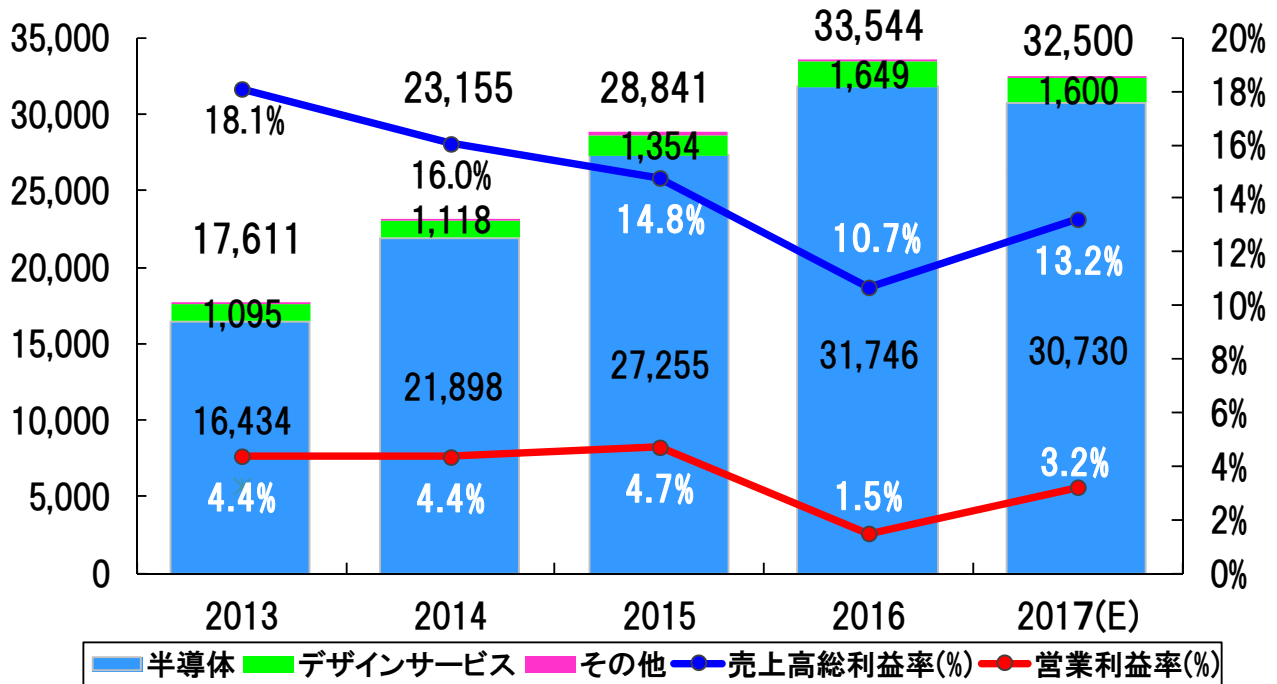
第4四半期において、現時点では為替変動による影響が若干プラスになると程度と見込む
(算出のために使用した為替レート: 113.06円)

今後の為替変動が不透明なため、現時点では通期における為替変動による影響額は、8月3日発表の△42百万円から変更しない



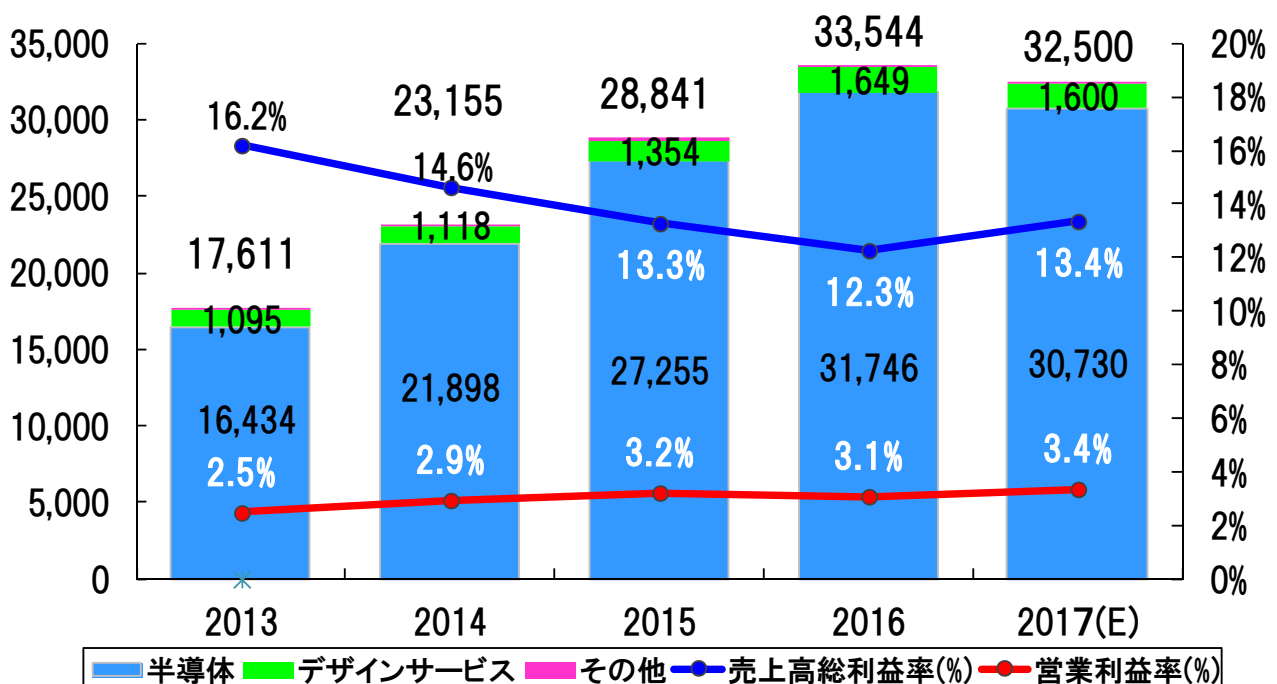
業績見通しの推移(連結)

(単位:百万円)



業績見通しの推移(連結) (為替の影響を除いた場合)

(単位:百万円)



3

事業の進捗状況

半導体事業

■ 事業環境

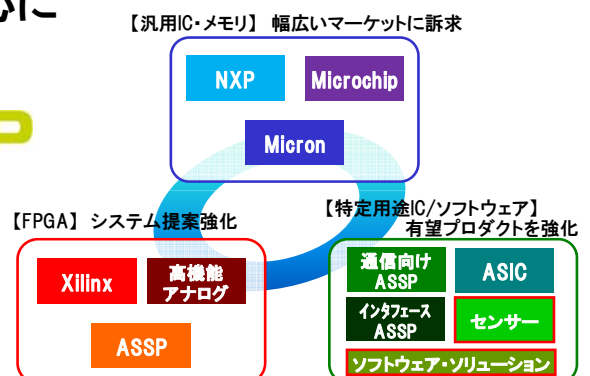
- 成長市場が変化
IoT・車載機器・通信機器(5G)・産業機器(ロボットetc..) データセンター・航空/宇宙・放送/映像・セキュリティ

■ 事業戦略

- 中核の大手メーカー製品を中心に成長市場に提案加速



- 特徴ある有望製品を扱うメーカーの開拓



■ FPGAでの取り組み

- 注力市場に向けた技術提案の強化
 - 通信市場 : 5G規格実現への新製品提案
 - IoT市場 : 新製品・技術提案
 - データセンター : 高速演算処理への新製品提案
 - 放送市場 : 4K/8K、H.265/HEVCソリューション提案
- 中小企業へのビジネス拡大
 - パートナー企業との連携強化
 - 採用実績あるソリューション事例を中小企業へ展開
- FPGAをコアにした他商材提案による売上拡大

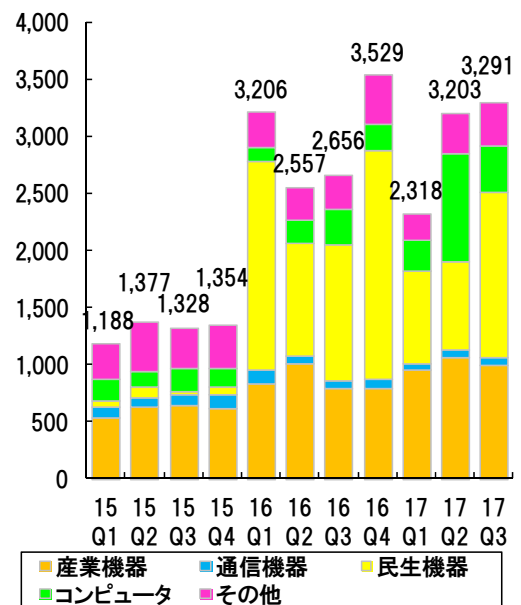


■ FPGAに次ぐ第2の柱となる製品の拡大

- 新規市場開拓
 - IoT、データセンター、スーパーコンピュータ
- 中小企業へのビジネス拡大
 - パートナー企業との連携強化
 - 中小企業取引数拡大
- マルチソケット提案の強化
 - 複数商材の提案/売上拡大



第2の柱となる主要4製品の売上推移



■ IoT Japan 2017に株式会社ソラコムとのブースで共同出展

- 開催日時 : 2017年10月11日(水)~13日(金)
- 会場 : 東京ビックサイト



■ 製造機械の遠隔監視に活用できる産業用IoTパッケージソリューションなどを展示



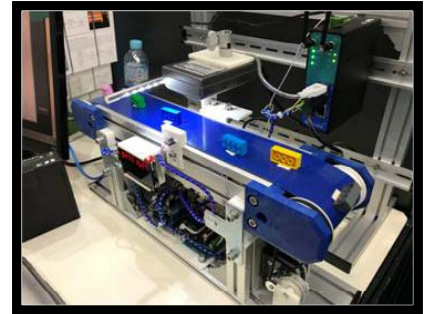
ソラコムブースでの共同出展

FY2017Q3 Results Reporting



産業用IoTパッケージソリューション

27



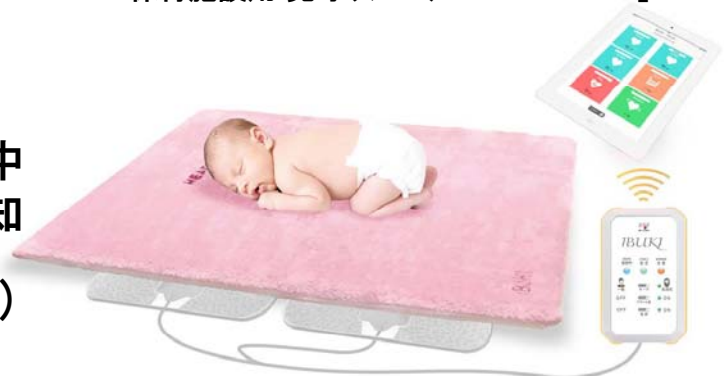
© 2017 PALTEK Corporation. All rights reserved.

非接触バイタルセンサーを活用した保育・介護向け見守りシステムを提供開始

- リキッド・デザイン・システムズの保育施設用見守りシステム「IBUKI PLUS」は、保育士の代わりに赤ちゃんの睡眠を見守るセンサー
- 体に接触することなく睡眠中の呼吸数・体動・離床を検知
- 乳幼児突然死症候群(SIDS)防止に最適のシステム

LIQUID

保育施設用 見守りシステム「IBUKI PLUS」

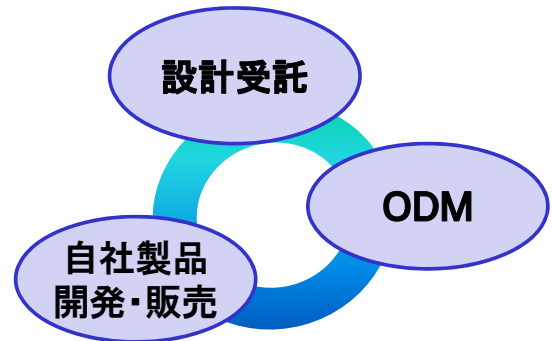


■ 事業環境

- 顧客は開発リソースを得意分野に注力
- その他の開発部分をアウトソース

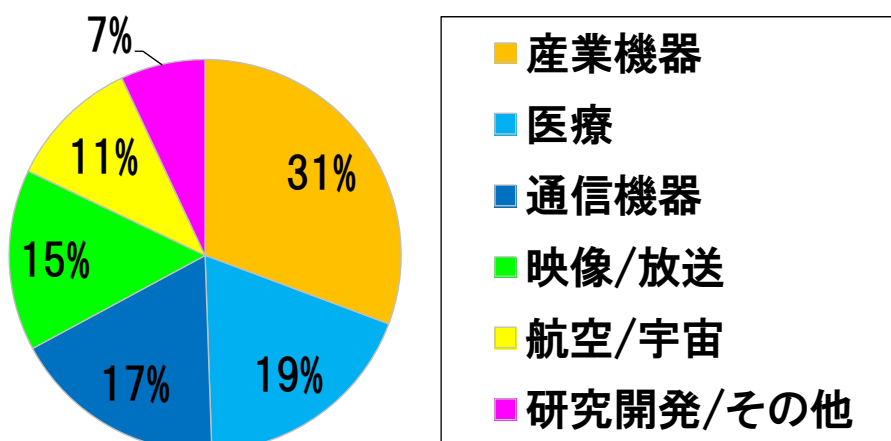
■ 事業戦略

- 設計受託の強化
- ODMの更なる展開
- 自社製品開発・販売
- ソリューションビジネスの展開



- 産業機器向けの設計受託・ODM、医療機器向けのODM、無線通信機器向け設計受託が堅調

2017年第3四半期(累計)での用途別売上構成



■ 欧州最大の国際放送機器展IBC 2017

- 開催日時 : 2017年9月15日(金)~19日(火)
- 会場 : オランダ アムステルダム



■ 最新映像圧縮技術H.265/HEVCを搭載した4K対応映像伝送システムなどを展示

■ 今後4K映像システムの普及が進んでくる海外でアピールし、パートナー企業の発掘を実施



FY2017Q3 Results Reporting



31



© 2017 PALTEK Corporation. All rights reserved.

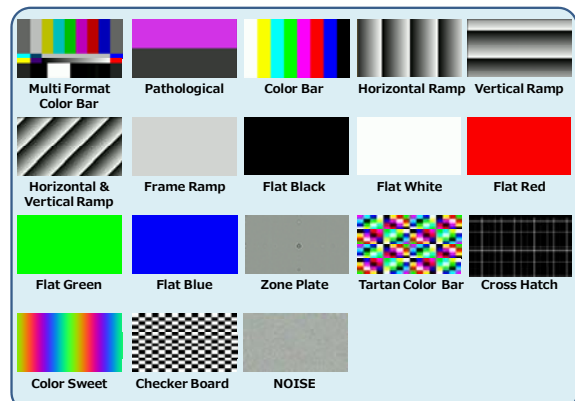
■ マルチチャンネル テスト信号発生器を開発

- 2K(フルHD)、4K、8Kのテスト信号を出す信号発生器を4機種開発、2018年3月に販売開始
- 現在普及拡大している4K映像システムや機器のチェック、将来システムである8K映像の研究開発時に活用

マルチチャンネルテスト信号発生器



ビデオパターン



以下の担当までお問い合わせ下さい。

柴崎 由記（総務グループ IR担当）

株式会社PALTEK

〒222-0033

横浜市港北区新横浜2-3-12 新横浜スクエアビル

TEL :045-477-2016

FAX :045-477-2012

E-mail :ir@paltek.co.jp

本資料取り扱い上の注意点

本資料に含まれる将来の見通しに関する記述は、現時点における情報に基づき判断したもので、当社グループは、これらのリスク発生の可能性を認識した上で、発生の回避及び発生した場合の対応に努める所存であります。

なお、本資料においては、将来に関する事項が含まれておりますが、当該事項は当連結会計年度末現在において判断したものであります。

また、実際の業績に影響を与えうるリスクや不確実な要素には、以下のようなものが含まれます。

- ① 国内エレクトロニクス業界の急激な景気変動や需要動向の変化
- ② 仕入先の代理店政策の見直しや再編等により取引関係の継続が困難となった場合
- ③ 不測の事態による当社グループの情報資産が流出した場合
- ④ 為替相場の急激な変動
- ⑤ 新規仕入先商品の立ち上がりの遅れが生じた場合
- ⑥ 顧客の日本国内での製品開発案件が更に海外へシフトし、当社グループの販売活動が及ばない地域へ移管された場合

参 考 資 料



2017年12月期 製品別業績予想

(百万円)	2016年12月期 実績			2017年12月期業績予想			通期増減	
	上期	下期	通期	上期	下期	通期	増減額	増減率
半導体	16,307	15,439	31,746	15,239	15,490	30,730	△1,016	△3.2%
FPGA	6,259	5,807	12,066	5,952	5,848	11,800	△266	△2.2%
特定用途IC	2,786	2,785	5,572	2,830	2,369	5,200	△372	△6.7%
汎用IC	2,083	1,366	3,450	1,616	1,683	3,300	△150	△4.4%
アナログ	1,236	1,315	2,551	1,618	1,881	3,500	948	37.2%
メモリ	3,940	4,165	8,105	3,221	3,708	6,930	△1,175	△14.5%
デザインサービス	924	724	1,649	767	832	1,600	△49	△3.0%
その他	54	94	149	68	101	170	20	14.0%
売上高合計	17,286	16,258	33,544	16,074	16,425	32,500	△1,044	△3.1%
営業利益	96	419	515	533	516	1,050	534	103.6%

- 為替変動により当社グループの利益は以下の4点で影響を受けます

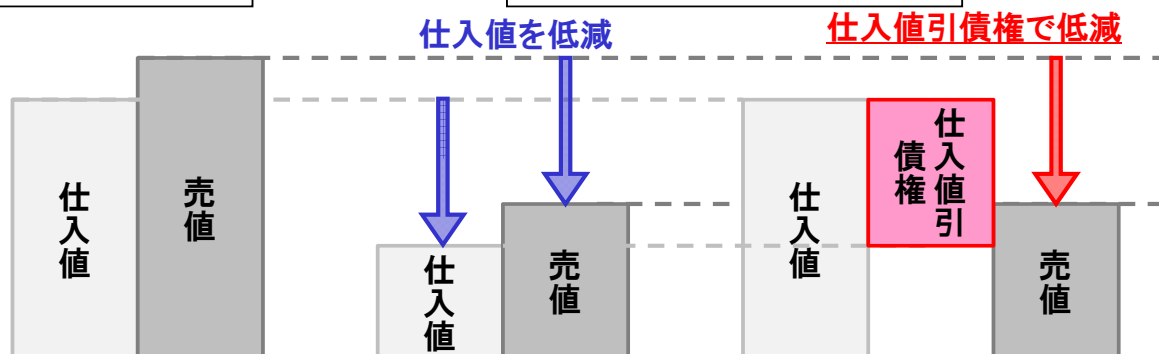
- ① 仕入値引ドル建債権の為替変動による影響
- ② 調達在庫の為替変動による影響
- ③ 決済時のドル調達レート変動による影響
- ④ ドル建売掛金入金時のレート変動による影響

【仕入値引ドル建債権の為替変動による影響】

- 当社が仕入先に対して保有する『仕入値引ドル建債権』が、為替レートの変動により評価額が増減することで、業績に大きな影響を与える
- 仕入値引ドル建債権について：
 - 量産案件によっては、通常価格よりも低い価格での販売を要請されることがある
 - その場合、仕入先との間で仕入価格の低減交渉を行う
 - その実現方法は、「仕入値自体の低減」と「仕入値引債権の付与による低減」

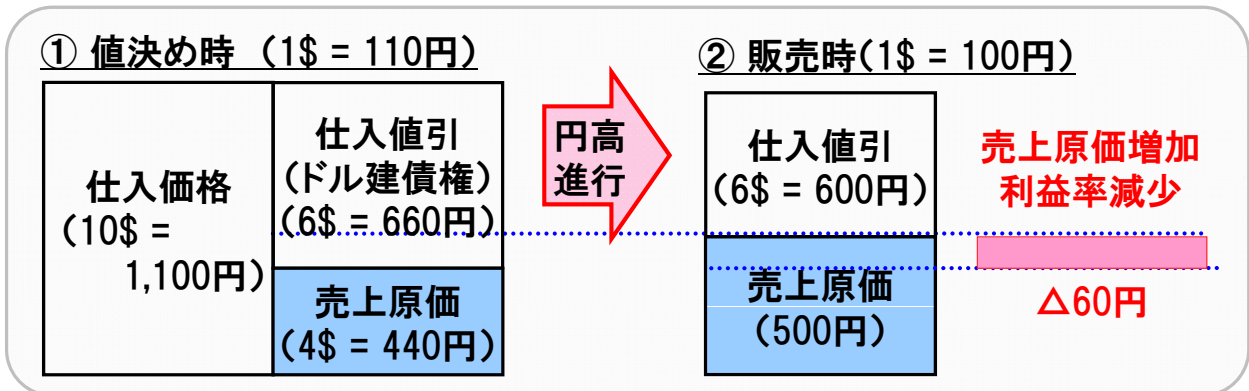
通常価格で取引

量産案件では値引価格で取引



- 仕入値引債権の評価額の増減は、値決め時と販売時の為替レートの差により生じる
- そのため、急速に円高が進行すると、為替レートの差が大きく生じるため、仕入値引債権の評価額が大幅に減少
- これにより、売上原価が増加し、売上総利益が減少

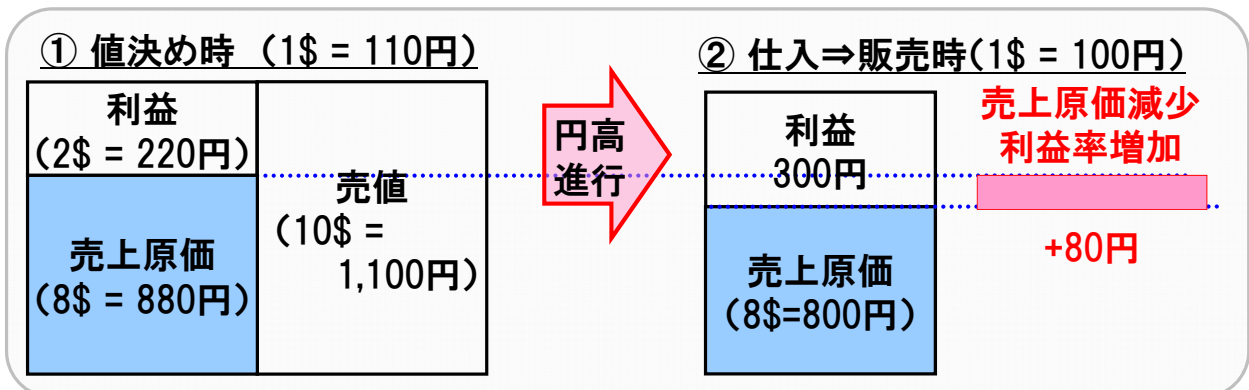
例：仕入れ価格10ドルの製品を販売する際の売上原価の変化



【調達在庫の為替変動による影響】

- 海外から仕入れたドル建の製品において、為替レートが円高に進行することにより、売上原価が減少し、売上総利益は増加

例：仕入れ価格10ドルの製品を販売する際の売上原価の変化

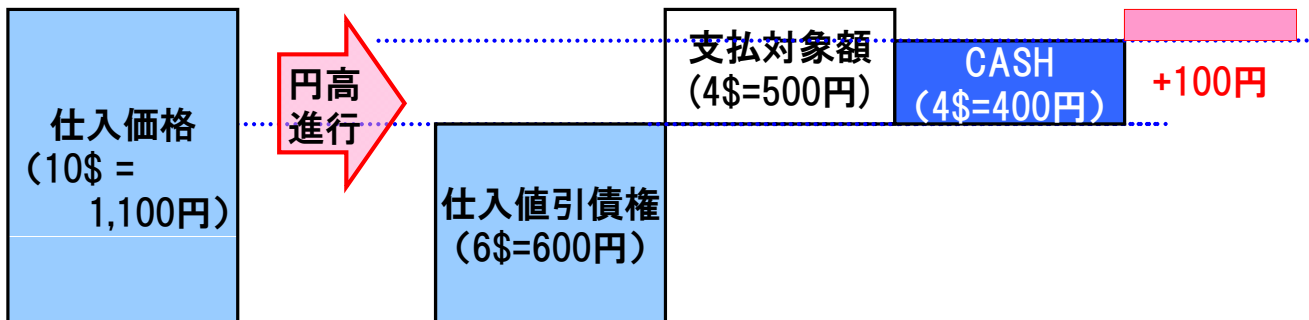


為替変動による影響の発生要因③

【決済時のドル調達レート変動による影響】

- 支払を行う際に円高に進行していた場合、ドルを調達する金額が少なくなるため、決済差額が生まれ、為替差益を計上することとなる
- 一方、円安に進行した場合は、為替差損を計上することとなる

① 仕入時 (1\$ = 110円) ② 販売・支払時 (1\$ = 100円)

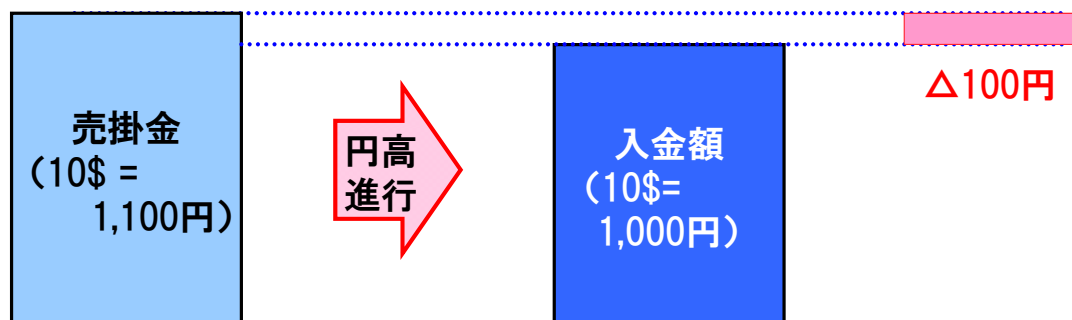


為替変動による影響の発生要因④

【ドル建売掛金入金時のレート変動による影響】

- ドル建売掛金の入金がある場合には、円高に進行するとマイナス、円安に進行するとプラスの影響が発生する(営業外の為替差損益)
- 当社はこのリスクを限定的にするために、為替予約を行っている

① 販売時 (1\$ = 110円) ② 入金時 (1\$ = 100円) 決済差額



開示区分	内容説明
半導体事業	半導体及び関連製品の販売、技術支援
FPGA	ザイリンクス社のFPGAを中心とするソリューション
特定用途IC	特定用途に特化した半導体を中心とするソリューション (例:通信向け、インタフェース向け、携帯端末向け等)
汎用IC	NXPセミコンダクターズ、マイクロチップテクノロジー社等の汎用ICを中心とするソリューション
アナログ	リニアテクノロジー社等のアナログ半導体を中心とするソリューション
メモリ	マイクロンテクノロジー社等のメモリを中心とするソリューション
デザインサービス事業	受託開発、ODM/EMS/OEM、自社製品の販売
その他	上記のカテゴリに属さないソリューション